

セキガネ温泉手づくり文化祭・関金温泉学びの広場 報告書

131102 倉吉市役所観光交流課 木藤

1 経過

関金温泉では、泉質や地域資源を活用し、「観光分野」「健康分野」「介護分野」を連携させ、保養温泉地として長期滞在者の増加をはかる新たなメニューづくりをおこなうとともに、地域住民に多く利用され親しまれる温泉地を目指す「関金温泉プラチナ（白金）プロジェクト」を推進してきました。これまで、観光分野においては自然体験プログラムとの連携、健康分野においては温泉に浸かりながら運動する湯中運動、介護分野では健康温泉イベントでの連携などをおこなっています。

関金温泉を再生していくためには、これらの取り組みを有機的につなげていくとともに、だれが、何を、どのようにしていけばよいのか、その方向性を多くの人で共有していく必要があります。

関金温泉の歴史・自然・文化を掘り起こし、関金温泉の地域資源を総集し、旅館組合、介護施設、医療施設、地域NPO団体、温泉利用団体、地域住民、行政が一体となって、自らの地域を自らの力で考え、行動し、関金温泉の賑わいを取り戻すため、関金温泉の将来像を描く「関金温泉グランドデザイン」を平成25年度に策定することとなりました。

関金温泉グランドデザインを策定するにあたり、4月からワークショップ形式（参加型会議）により、地域住民、旅館組合、行政などのメンバーが集まり、関金温泉の現状分析、課題整理、再生に向けたアイデアなどを議論してきました。その中で出されたアイデアを自分たちができる範囲で、「まずやってみよう」という考え方で実施したものが「セキガネ温泉手づくり文化祭」です。

また、計画策定にあたっては、これまで関金温泉プラチナプロジェクトで取り組みを進めてきた、温泉と健康についての取り組みや、関金温泉を取り巻く社会環境の変化や社会制度の見直しなど、外的な要因、背景、温泉文化等について理解を深めることも必要になることから、これまでの取り組みの評価と、専門家の意見を伺う機会の場をつくり、そこが次への出発点となる分岐点として、「関金温泉学びの広場」を開催します。

2 目的

関金温泉再生に向けて議論されたアイデアの実施と検証をおこない、グランドデザインの中間報告の場とするとともに、将来像をより具体的に描いていくことを目的とします。

3 主催

関金温泉旅館組合 ※学びの広場は倉吉市との共催

4 実施体制

関金温泉グランドデザイン検討会参加者、関金温泉旅館組合、倉吉市観光交流課、地域住民、出展者ほか



5 期 日

平成 25 年 10 月 19 日（土） 11:00～17:00

※夜の部 18:00～23:00

平成 25 年 10 月 20 日（日） 11:00～17:00

6 会 場

関金温泉街、鳥飼旅館、グリーンスコレせきがね、美章苑、延命茶屋、旧長門旅館
旧温清楼、地藏院、湯命館、都市交流センター

7 内 容

【概要】

「食べる」「雑貨」「体験」「温泉」「展示」「キッズ」「夜の部」「学ぶ」に分類して出展。自ら準備し、片づけることを原則として出展者を募集。60 を超える出店者が集まる。「手づくり」を重視し、案内看板、会場マップなどは手づくりで作成。また、当日の運営、設営準備なども参加者メンバーで役割分担をおこない実施。当日は、農業大学校のボランティアスタッフ、中学生のボランティアも合流。

【スタッフの声】（11/18 グランドデザイン）

- ・ 地元、市外から多く来場があった。年代層も幅広かった。
- ・ 楽しかった。来年も続けてほしい。
- ・ 介護施設の利用者が来てくれた。ラジウムうどん美味しかった。
- ・ フラワーアレンジメント、押し花、大盛況。
- ・ 展示品（陶芸）を買いたいという人がいた。
- ・ 自分の出店（ピザ）が忙しくて回れなかった。
→出店者の人も楽しめるように交代で店番するとかの工夫が必要。
- ・ 2 日目の準備、片づけの段取り不足があった。
- ・ PDCA をやって来年につなげられたらと思う。

- ・面白そうと市内の各場所で話題になっていた。
- ・関金山守地区の参加が少なかった。
→チラシのポスティングができなかった。
- ・そぞろ歩きの風景を見て昔を思い出した。
- ・始まりと終わりの設営の段取りが不足していた。農大ボランティアがいなければできなかった。片づけの時に人がいなかった。
- ・昼食が売り切れていた。来場者はがっかりだった。
- ・案内が少なく、会場を迷った人がいた。
- ・地域住民と旅館組合が一丸となってやり終えたことをとてもうれしく思う。
- ・地元の人のおもてなしに感動した。手づくりの作品を展示し、自由にお持ち帰りください等。
- ・温清楼の足湯がとてもよかった。住民の力でもう1回使えたらと思った。
- ・鳥飼旅館で実施した“学びの広場”に多くの人に来ていただいた。
- ・湯中運動無料体験の参加もありよかった。
- ・他の温泉地からも関金温泉の評価が高くなっている。
- ・山守地区にチラシをポスティングできなかったことが残念。→移動手段がない人が多い。送迎があるとよかった。
- ・湯梨浜町はわい温泉の観光協会に関金温泉手づくり文化祭のポスターが貼ってあった。
- ・このイベントを恒例にしてほしい。竹とんぼを配布してくれた人は来年出店したいとの意向。
- ・地元の人がやり、地元の人がちょっとずつサービスや手助けをしてくれたことが良かった。
- ・道沿いに休憩できるベンチがあると良かった。
→車が通るので難しい。空地に休憩スペースを作った。
- ・開催時間を11:00～17:00→10:00～16:00にしてはどうか。
- ・金魚すくいは大盛況で、3,000～4,000匹が無くなったと聞いた。金魚の種類も良いものだった。
- ・アフリカン太鼓は30人ほど集まり、楽しい時間を過ごした。住職が一番はしゃいでいた。





食べる

(19日・20日)

石井菓子店 (バナナまんじゅう)、真栄農産×Balance (米粉クッキー)、菓膳食堂めぐり&Join (菓膳ピザ) てから (手づくりドリンク)、とりかい牛肉店 (和牛串)、いずみや酒店 (ビール・チューハイ)

(19日)

ドードー食堂 (グリーンカレー)、食堂カルン (アジアサンド)、森の生活者 (ベーグル)、遊YOU村 (しし鍋)、お台場 Coda (ジェラート)

(20日)

えぐ芋鍋 (無料配布)、浅井もちっこクラブ (もち無料配布)、トラバドール (やさいパイ・コーヒー)、つきとおひさま (スコーン・マフィン)、ホームメイド EYE (ケーキ・雑貨)、浜根農園 (焼き芋・野菜)、関金温泉旅館組合 (関金ラジウムうどん)、毛利さんちの甘酒、関金野球スポ少 (フランクフルト&ポップコーン)、ねこ。(やさいスープと玄米まぜごはん)、遊 YOU 村 (山菜おこわ)、サテンドール (スパイシーカレー)、石臼の会 (そば)、じくはら酒店 (いっぷく茶屋)、十代田さん (コーヒーラテ&ケーキ)

【まとめ】

- ・ 準備メンバーの紹介やクチコミで出展者を募集したところ、特色やこだわりのある店が多く出店。
- ・ 想定以上の来場があり、昼時に売り切れの店が続出し、食べるものが無い状態となった。
- ・ 保健所の類似営業許可を取る手続きが、申請者 (関金温泉旅館組合)、出展者とも初めての事務作業であり労力がかかった。
- ・ 関金温泉の新名物料理として、「関金温泉ラジウムうどん」が関金温泉旅館組合から発表できた。
- ・ 来場者の数を予測するため、前売りチケット (100円×10枚+100円割引=1,000円) を販売したが、販促不足、特典不足により販売が伸び悩んだ。

- ・倉吉市のほか、周辺町村、鳥取市からも出店があった。
- ・「手づくり」の趣旨から、移動商人の出店は断った。
- ・出展者からは、「とても良いイベントだった」「参加しやすかった」「出店料をとっても良いのでは」などの声があった。
- ・歩いている人から「出店者がやさしかった」「話しやすかった」などの声があった。



雑貨

(19日・20日)

若女将 (チャリティー絵葉書)、てぬぐい工房らっぷ (てぬぐい)、川崎さん (古本無料配布)

(19日)

山二鳥 (手づくり雑貨)、缶バッジ工房まーぷる (缶バッジ)



体験

(19日・20日)

金魚すくい、足つぼマッサージ、エコクラフト、折り紙、加藤さん(書)

(19日)

竹とうろう作り、竹とうろう教室

(20日)

フラワーアレンジ、押し花、Imuya(マヤ暦カウンセリング&マッサージ)、makana(カイロプラティック)、ハピネス(キーホルダー作り)、湯中運動



温泉

- ・関金温泉の各旅館、日帰り入浴施設に入浴できる「湯めぐりチケット」を販売(担当: 関金温泉旅館組合)
- ・旧温清楼の露天風呂を足湯として無料開放(担当: 関金温泉旅館組合)
(利用にあたり、準備メンバーで草刈、清掃をおこない実施)

【まとめ】

- ・湯めぐりチケットは販促不足もあり売れていない様子であった。
- ・関金温泉のイベントであるため、温泉に入浴してもらうきっかけづくりが課題。
- ・旧温清楼の足湯は会場の最奥部にあったにも関わらず入浴者が後を絶たず、常に満席の状態なほど好評であった。
- ・柚子の寄付があり、柚子風呂にして香り豊かな風呂を作った。
- ・“温清楼の露天風呂”の関心が非常に高いことが確認できた。
- ・温清楼の復活を望む声が多数寄せられた。



展示

(19日・20日)

関金竹細工クラブ (竹細工)、写友つちのこ (関金写真倶楽部)、金田さん (工芸品)、サエラ (手づくりバック&小物)、エコクラフト&折り紙、山本さん (パッチワーク)、田村さん (ジャズカフェ)

(19日)

山野草会 (盆栽)、Tocky (どんぐりフィギア)

(20日)

木山さん (杉玉)、かずらアート、関金陶芸作品、矢部さん (似顔絵)



キッズ

(19日・20日)

くらすけくん、かごかき記念撮影、働く車展示

【まとめ】

- ・くらすけくんは、中学生ボランティアが大活躍で、会場内に賑わいを作っていた。
- ・関金温泉の文字が入ったかごを準備し、写真撮影ポイントを作ったが、利用する人はほとんどなかった。
- ・働く車をキッズコーナーに展示したが、メイン通りから離れていたため、人通りはすくなかったが、消防車が来た時間帯は家族連れでにぎわった。



夜の部

アフリカ太鼓&ライブ ポレポレツアー

10月18日～20日に、鳥取、倉吉、米子で開催される「ポレポレツアー2013inTottori」と連携開催。スライド写真とトークによるアフリカ子どもたちの命の輝き、ウゴマ（太鼓）やカリンバが奏でる大地の音色のライブ。

期日：10月19日（土）開場 16:30 スタート 17:30

場所：地藏院境内

参加費：2,000円

主催：IJU 大学準備室、旅をする木

【まとめ】

- ・地藏院の境内でおこなったライブイベントは、アフリカ太鼓のリズムに合わせ、来場者と出演者が一体となって踊る最高潮の盛り上がりを見せた。
- ・セキガネ温泉手づくり文化祭の開催が決定される前から予定されていたイベントであったが、双方のイベントがうまく連携できたと思う。
- ・ライブに来場する車と、関の湯の客が道路で交錯する場面もあり、駐車場の課題があった。



若女将 Café&Bar

関金温泉若女将による Café&Bar。食事は、地元農家の持ち寄り。持ち寄った内容によって木札と交換し、木札で食事や飲み物と交換できる運営スタイル（ぶつぶつ交換）。料理の持ち寄りが無い参加者は現金で購入。

期日：平成 25 年 10 月 19 日（土）18:30～23:00

場所：グリーンスコールせきがね

料金：1 皿 3 点盛り 300 円（食事は地元の方の持ち寄り）、ドリンク 300 円程度

【まとめ】

- ・準備スタッフ、来場者が集い、満席のまま夜が更けていった。
- ・スタッフ同士の交流も行うことができた。



学ぶ

学びの広場 「講演会&パネルディスカッション」

①概要

関金温泉のこれまでの取り組みと評価及びこれからの方向性について理解を深める講演会及びパネルディスカッションを開催

②期日 平成 25 年 10 月 19 日（土）13:30～17:00

③会場 鳥飼旅館

④参加者 46 名

（地域住民、保健師、観光関係者、介護施設関係者、湯中運動参加者など）

⑤内容

13:35 開会

13:35 あいさつ（樋口組合長）

13:40 【1 時限目】「コレマデ」の学びの場

ねらい：関金温泉のこれまでの取り組み、それぞれの取り組みを知る。

講師：木藤隆親（倉吉市観光交流課主任）

(1) 関金温泉の紹介

- ・営業中の旅館、入浴施設、旧旅館、周辺自然環境

(2) 「倉吉市×関金温泉旅館組合」の取り組み

- ・湯中運動、プラチナプロジェクト、湯中運動体験談（廣江、新田、古賀）

(3) 関金温泉若女将プロジェクトの取り組み

(4) グランドデザイン検討会の取り組み

(5) 体験型教育旅行の取り組み



14:05 【2時限目】「温泉×文化×いのち」の学びの場

ねらい：すべての中心にあるある温泉。人に寄り添う温泉とは？

有識者の意見を聞いて、もう一度温泉について考えてみよう！

名湯百選ってどんなの？

講師：合田純人氏（NPO 健康と温泉フォーラム常任理事）

演題：温泉文化と地域の再生～人に寄り添う温泉とは～



- ・名湯百選の追加認定を行うにあたり、関金温泉を調査したところ、市民が温泉を大事にしている温泉地だったことがわかった。関の湯は泉質、管理とも大変すばらしい。
- ・温泉は生命を再生してくれる装置であり、地域の資産である。
- ・温泉のわき出るところは山の裾野が多く、関金にも大山がある。
- ・温泉は、山に降った雨水が40年～50年かけて出てくる。
- ・地蔵院のそばに共同温泉「関の湯」があるが、おそらく、地蔵院の境内に温泉があっ

たと考えられる。

- ・ 寺湯と呼ばれるものだが、昔は、温泉を布教の一環としておこなっていた。
- ・ 地蔵院も寺湯を持っていたのではないか。
- ・ 温泉は、神様から与えられたもので誰のものでもない、という認識がもっと必要。
- ・ 日本の温泉の7～8割は単純泉に分類されるが、単純泉に名湯が多い。
- ・ ラドン温泉は気体を吸って効果が得られる。
- ・ 身体を健康にするためには、少しの刺激が必要であり、放射能泉は効能が期待できる。
- ・ 関金温泉と同じラジウム・ラドンの泉質を持つ秋田県の玉川温泉は、ガンの末期患者が多く訪れる。
- ・ 長期滞在する中で、病状が急変して亡くなる方も多いが、夫婦で過ごす最後の時間は残されたものにとって「最後まで寄り添えた」という充足感を与える。このような温泉の役割もある。
- ・ 北海道の豊富温泉は、アトピーに効く温泉で、長期滞在者が大変多く訪れる。
- ・ 温泉の特性を活かした取り組みが必要。
- ・ 温泉に入りたい、という気持ちは、誰もが持っているのではないかと思う。赤ちゃんが入っている母親の羊水は、温度が36度～37度で、泉質はナトリウム塩化物泉に分類される。DNAの中に温泉が気持ちいいということが組み込まれているのではないかと思う。

14:50 【休憩】おもてなしタイム

旅館組合からのおもてなし（スイートポテト、お茶の振る舞い）



15:05 【3時限目】「コレカラ」の学びの場

ねらい：市民参加の交流のまちづくり、地域資源を活かした魅力ある観光地
滞在者と市民のコミュニケーションの機会創造、地域文化の伝承

(1) パネルディスカッション

コーディネーター：合田純人氏

パネリスト：樋口稔起（関金温泉旅館組合長）

木藤隆親（倉吉市観光交流課主任）

西河葉子（関金温泉若女将・地域おこし協力隊）

見生美恵（湯中運動リーダー）

楠本博文（倉吉市体験型教育旅行誘致協議会事務局長）



樋口) 地域住民の人が一緒にやってもらえる一体感を感じている。地域全体でもてなし
ていけたらと思う。

木藤) 行政マンとして関金温泉に携わって3年目になる。関金温泉が地域にとっての誇
りになり、ここに住んでよかったと思える場所を作っていきたいと考えている。

西河) 関西にある豊かさと関金にある豊かさは違う。自分の求める豊かさは関金にあっ
た。ヨソモノを受け入れてくれることに本当に感謝している。魅力的な人がいっぱい
いて、発信していきたいと思う。

見生) 湯中運動リーダー養成に友人から誘われて参加した。それまで関金で地域おこし
をしていることも知らなかった。昔、陸での運動をやっていたが、温泉を使って筋力
アップができることを知り、目からウロコだった。湯中運動に出会って、水中運動を
人に勧められるようになった。

楠本) 大阪に10年いたが、子育てを機に関金に戻ってきた。これまで関金のことに多
くかかわってきた。現在は、NPO 養生の郷で地域おこしをしている。都会の子どもが
関金の自然体験ができるような取り組みを行っている。都会の子どもたちを受け入れ
ることで、孫が来たような感じで山間部に子どもの声が聞こえるようにしていきたい。
農家民泊体験は卒業文集でも一番に書かれるほど印象に深く残る体験。農家民泊を進
めていきたい。温泉との連携はまだ少ないが、今後連携を深めていきたい。

合田) 温泉は、温泉を取り巻く地域、森、川、気候、時間軸などが組み合わさり生命が
再生していく。温泉、食、自然体験は大切な要素。関金温泉は2011年に名湯百選に
選出したが、その前に温泉療法医と関金温泉の調査をおこなった。その時、関金温泉
は死んでいる状態だった。基礎体力が落ちてきている温泉地という評価だった。この
度の、手作り文化祭は、市民による手作りのイベントであり、大変うれしい。温泉に
健康、介護が自然な形でからみ、市民が参加している温泉地は他にない。日本でユニ
ークな取り組みができると思う。行政のトップ(市長)は変わっていくが、住んでい
る人は変わらない。住民が意思決定をしていく必要がある。温泉を自分のものにとら
えて、地域がリーダーになって、参加していくことが必要。関金温泉ではグランドデ
ザインを策定中だと聞いているが、グランドデザインするための目的をはっきり持つ
べきだと思う。根幹をどうしていくのか。温泉をどうしていくのかをディスカッシ
ョンしていく必要があると思う。

【質疑】

会場) 湯命館のサウナが好きでよく利用しているが、湯命館のサービスが悪くなったと
口々に聞く。利用客も減っていると思う。指定管理者制度になって距離を感じるよう
になった。

→湯命館を自分のものだと思えているかが重要。指定管理になっても、行政が

直営で運営していても、地域のものであることに変わりはない。湯命館を自分のものだと思ったらそのような声を湯命館に届けようと思えてくるのではないか。(合田)

会場) フトコロが寂しい経済状況。儲かる話がない。昔は農業でも所得があり、農閑期に関金温泉で良く飲んだものだが、今はゆとりがない。

→それは国レベルの話。ここで議論しても解決しない。(合田)

→話はそれるが、外国を見ると、日本の医療制度に驚く。日本ほど医療に中立な国はない。誰もが安心して医療を受けられる制度を作っている。素晴らしいこと。外国では不平等が当たり前。その医療費が高くなり、制度の存続が危ぶまれている。この日本の現状で関金温泉をどうしていくか。「温泉に行くと医者いらず」と昔言われていた。関金温泉では、温泉を使って「健康」「介護」を連携させた健康づくりをおこなっている。これは、全国的にもすごい実験をしている。(合田)

会場) 関金温泉の入口にあたりに住んでいる。関金温泉に人が来ていた時を知っているものとして、今の状況が本当にさびしい。住民の意識が重要だと思う。以前は、村おこし事業というものがあり、当時、中心メンバーも40代で、なんとかがんばって関金温泉を活性化していこうとしていた。今回、関金温泉グランドデザイン検討会が開催されることを知り、初回から参加しているが、参加者の中に地元の人が少ないと感じた。関金温泉若女将が決まって、行政担当者と2人で自宅にあいさつに来たが、その時は関心が無かった。しかし、手作り文化祭の取り組みに発展していく中で、地元の人でいいものを持っている人がたくさん集まり始めた。これから先、どうつながっていくかが重要だと思う。関金温泉グランドデザイン検討会の様子も、毎月まとめて市報と一緒に全戸に配布されている。知ろうと思ったら知れる。もっと参加してほしいと思う。

会場) これまでの取り組みを見てきて、誠意が伝わってきている。春につつじ温泉まつりを開催しているが、ここだけの祭りになっている。里見まつりも山守の祭りになっている。それぞれ、忙しいとか事情はあるが、顔を合わせていると伝わると思う。続けていかないといけない。グランドデザインに期待もしたいし、協力もしたい。外野的に見てしまうところがどうしてもあるが、広げる工夫をしていく必要がある。

→全国各地の温泉地で、温泉旅館が繁盛していたころは、旅館だけ儲かって住民は恩恵がない状況になり、旅館と住民が離れた。住民からすると、今さら再生と言われてもという気持ちも当然あると思う。しかし、旅館が廃業して温泉がドブに流れていることは、みんなの責任。倉吉市が持っている温泉は関金温泉だけ。自分でやることが連携につながってくる。(合田)

会場) 温泉関係者から、温泉に来てくれという姿勢が無かった。商売になっているという感覚があった。地元で協力せずに何を、という意識があった。しかし、このような取り組みを受けて、考えが変わってきたと思う。

→自分のものだと思うことが重要。地産地消は自分のものを使うことが原則。(合田)

→手づくり文化祭は湯命館スタッフ無しでは絶対にできなかった。準備、相談、いろいろなところで助けてもらい、一緒にやってきた。(西河)

→湯命館の指定管理を受けて5年になる。最初は地域とのコミュニケーションをとって
ていなかったと感じている。なんとかしないといけない、とはずっと思っていた。
今は、湯命館は地域の中にあるものだと気付いて、貢献できることをやろうと思っ
ている。暮らし続けるために事業も大事だが、できる限りやっていきたい。(芦田)

16:45 終了

【アンケート結果】-----

※来場者にアンケートを配布したが、記入の呼びかけを積極的に行わなかったため、回
収は3枚にとどまった。

○回収枚数 3枚

○本日の講演会の開催をどこで知りましたか。

- ・ポスター (1) ・チラシ (1) ・新聞 (0) ・インターネット (0) ・ラジオ (0)
- ・テレビ (0) ・知り合いから (0) ・その他(湯中教室、歩いてたらいいただいた)

○本日の講演会の中で最も興味を持った話はなんですか。

- ・温泉の DNA が切れている、という言葉が心に残りました。歴史 (DNA) を知って入浴
すると、泉質以上の効果があるように思います。
- ・温泉の良さ。

○旅館組合のおもてなし (スイートポテト) はいかがでしたか。

- ・おいしかった (2) ・ふつう (0) ・まあまあ (0) ・その他 (0)

○今後の関金温泉に期待することは何かございますか。お書きください。

- ・町外の人に来ていただける呼びかけ、行事をこまめにさせていただく。町内の人にもどし
どし利用してもらおう。
- ・関の湯さんはこのままで続いてほしいです。温清楼さんの復活は無理でしょうが・・一
度だけ入らせていただきましたが素晴らしかったです。温泉 DNA がつながるといいです
ね。

○その他、本日の講演会について感想をお願いします。

- ・ざくばらんな話で時間のたつのを忘れました。
- ・真賀温泉に入り、関金温泉に入ってもうひとつとっていましたが、講演会に立ち寄っ
て良かったです。
- ・たいへん勉強になりました。

学びの広場 「健康×介護×温泉ブース」

①概要

関金温泉プラチナプロジェクト（観光、健康、介護の連携）を具現化し、理解を深める場として、学びの広場を開催。市役所医療保険課、長寿社会課、保健センターによる健康相談、認知度テスト、介護施設による介護相談、リハビリ体操、車いす体験、湯中運動体験、パネル展示などを実施。各ブースを回りやすくするため、チェックラリーとし、最後にガラポンを行った。

②期日 平成 25 年 10 月 20 日（日） 11:00～15:00

③会場 関金都市交流センター

④来場者 76 名

⑤内容

●受付

●健康チェック（担当：医療保険課、保健センター）

握力、柔軟性、バランス感覚、骨密度を測定し、数値を判定

●健康相談（担当：保健センター）

健康チェックの結果をもとに保健師による健康相談

●リハビリ体験・リハビリ相談（担当：老健ひまわり、みのり福祉会）

相談内容に応じて、作業療法士や栄養士との相談ができるリハビリ相談、ゲーム感覚でリハビリ体操ができるブースへ誘導

●認知度チェック・なごみアート・車いす体験

（担当：長寿社会課、老健ひまわり、倉吉市社会福祉協議会）

タッチパネルを使った認知度チェック、指を使って絵を描くなごみアート、傾斜を利用した車いす体験を実施

●関金温泉って？（担当：関金温泉旅館組合）

関金温泉のこれまでの取り組みやこれからの取り組みなどをまとめたパネルを展示

●ガラポン抽選会（担当：関金温泉旅館組合）

チェックポイントをすべて回った人にガラポンを実施。特賞はグリーンスコール宿泊券。その他、湯楽里宿泊券、湯命館無料入浴券、くらすけくん木製しおり、ポケットティッシュなど

【アンケート結果】-----

※チェックシートを終了した人がガラポンをする際にアンケート用紙を配布。担当者が配布を失念しており、回収は 10 枚にとどまる。

○全体 回収枚数 10 枚

○関金温泉手づくり文化祭の開催をどこで知りましたか。（複数回答）

- ・ポスター (5) ・チラシ (1) ・新聞 (1) ・インターネット (0) ・ラジオ (1)
- ・テレビ (1) ・知り合いから (5) ・その他 (0)

○健康チェックやリハビリ体操などのイベントを行っていることを知っていましたか。

- ・知っていた (5) ・知らなかった (5)

○“学びの広場”では、「温泉と健康」をテーマに、健康チェックやリハビリ体操、関金温泉のパネル展示などを行いました。感想はいかがですか。

- ・楽しかった。 ・よく勉強になりました。 ・良かったです。 ・とても興味深かった。
- ・良。 ・いいと思いました。 ・今後実施したし。

○関金温泉では、温泉の中で健康運動をおこなう「湯中運動」を行っています。湯中運動をご存知ですか。また、興味はありますか。

①湯中運動を→知っている (5) 知らない (5)

②湯中運動に→興味がある (7) 興味がない (1)

○関金温泉新名物“関金温泉ラジウムうどん”を召し上がった方にお伺いします。感想はいかがですか。

- ・とてもおいしかった (1) ・おいしかった (2) ・ふつう (0)
- ・もう一味 (0) ・もう二味 (0) ・その他 (0)

【まとめ】

- ・関金温泉が取り組みを進めてきた、「観光」「健康」「介護」が連携した「関金温泉プラチナプロジェクト」を具現化する場として、昨年引き続き開催。
- ・昨年の課題から、各ブースを回りやすくするため、チェックラリースートを用意した。
- ・健康、介護ブースに楽しく気軽に参加してもらうため、ガラポンを実施した。
- ・昨年と比べ、来場者が大変多かった。

【スタッフの声】 11/6、11/13

- ・各ブースをめぐるため、一体感があって良かった。チェックシートが機能した。
- ・広報に健康ブースの紹介が必要だった。また、当日の地図や立て看板にも記載が必要。(温泉街の賑わいと一体感が必要)
- ・広報に地区社会福祉協議会、自治公民館、地区公民館への協力依頼があっても良かったと思う。
- ・湯中運動の参加者が体調が良くなったと言っていた。
- ・ラジウムうどんが美味しかった。
- ・継続することで認知されてくると思う。
- ・なごみアートは大変人気があった。
- ・チェックシートの項目は再検討が必要。グループでまとめすぎていた印象。
- ・ヨガ教室の参加者が少なかった。PR不足ではないか。





学びの広場「湯中運動無料体験」

①概要

温泉に浸かりながら健康運動をおこなう「湯中運動」を広く周知するため、無料体験をおこなった。

②期日 平成 25 年 10 月 20 日 (日) 1 回目 : 11:00 2 回目 : 13:00 3 回目 : 15:00

③会場 美章苑

④参加者 1 回目 : 6 名 2 回目 : 5 名 3 回目 : 4 名 合計 15 名

⑤講師 古賀眞澄氏 ((株) パルフィットシステム)

⑥内容 血圧測定、湯中運動 (基本)、湯上り体操 (呼吸法、ほぐし)

⑦参加者の声

- ・リラックスできて身体が軽くなった。
- ・とてもよかった。継続していきたい。
- ・家で十分できると思った。やっといこうと思う。
- ・身体のシンからあったまっている感じがする。ボールも気持ちよかった。
- ・意識しない部分を使った感覚。日常では味わえないと思った。温泉が近い人がうらやましい。
- ・湯中運動の教室に参加している。湯中運動が普及してほしいと思う。
- ・身体がポカポカして気持ち良い。頭がすっきりした。肩が楽になった。
- ・身体がすっきりした。昨日は骨盤ダイエットをしたが、湯中運動はあったまるので良い。
- ・去年の無料体験にも参加して良かったので今回も参加した。教室に参加したい。
- ・家で続けていきたい。
- ・五十肩で肩が上がらないが、湯中運動をやって少し上がるようになった。なるべく病院にいかない身体を作りたい。
- ・少しずつでもできる運動を続けていきたい。



8 広 報

- ・報道機関（新聞社、テレビ等）への情報提供
- ・市報くらよしチラシ挟み込み（全戸配布）
- ・BSS ラジオ出演（15日）
- ・NHKふるさと伝言板出演（18日）
- ・関金地区エリアチラシポスティング
- ・行政機関（観光、福祉）への情報提供、案内
- ・関係機関（周辺温泉組合等）への情報提供、案内

9 取 材

- ・山陰放送（10分程度の番組で放送）
- ・日本海ケーブルネットワーク（NCN）
- ・新日本海新聞
- ・読売新聞

10 総 括

- ・関金温泉グランドデザイン検討会で出たアイデアを試しにやってみよう、という趣旨で、スモールスタートをイメージしていたところ、続々と参加者、協力者が集まり、これだけの大きなイベントになった。
- ・関金温泉若女将（地域おこし協力隊）が7月に着任し、関金温泉街に住む人1軒1軒を訪問し、協力を求めていったことが非常に大きな成果を上げたと考えられる。
- ・人が人を呼び、それぞれが力を出し合った結果、大きな力が生まれたと実感した。

- ・このイベントを通じて、地域住民が関金温泉の取り組みに関心向き、参画してきたことが大きな成果だと感じた。
- ・関金温泉の将来像を描くランドデザインには、地域住民、行政、介護施設、旅館組合など、様々な主体がどのような役割を果たすかを示していくことが重要だと考えるが、セキガネ温泉手づくり文化祭を通じて、地域の力が結集し、「自分たちでやっていくんだ」という気持ちが表れていたように感じた。また、行政の役割としては、そのような取り組みを支援していくことが必要であると感じた。
- ・倉吉市では、温泉を使った健康運動である湯中運動など、温泉を健康増進に利用していく取り組みを平成 24 年度から行っており、その周知と理解を深めるため、手作り文化祭に合わせて“学びの広場”を開催したところ、講演会&パネルディスカッションに多くの来場があり、少しずつではあるが、理解が深まっているように感じた。
- ・講演会では、これらの関金温泉の取り組みが全国的にも高く評価されることが確認できた。特に都市交流センターでおこなった「健康×介護×温泉ブース」では、市役所医療保険課、長寿社会課、保健センター、介護施設など複数の主体が集まり、温泉と健康について協力した取り組みであり、大変高く評価された。今後も有機的な連携を深めていく必要があると感じた。
- ・セキガネ温泉手づくり文化祭及び学びの広場の開催で、関金温泉の将来像が具現化できたこと、また、その内容が大変高い評価を得たことは将来像を描くうえで重要なイベントになったと思う。
- ・今後、関金温泉ランドデザインを図式化していくとともに、できることをすこしずつやっていくことを並行して行うことで、将来を描きつつも身の丈にあった取り組みができると感じた。